

地域をめぐる政治・経済的構造と 住民の応答 ー普天間基地移設問題を事例にー



写真提供 吉川 尚伸

1

名護市をめぐる政治・経済的圧力

早稲田大学大隈記念大学院公共経営研究科

塚田大海志

tsukada-t@k2.dion.ne.jp

2

名護市の財政状況

(名護市企画財政課「2003年度名護市決算状況」)

- 歳入総額 282億6,955万円
- 標準財政規模 101億2,849万円
- 普通建設事業費 88億1,941万円 (県内3位)
- 基地依存率14.2%
(北部振興策・島田懇談会事業費を含めると23.6%)

完全なる「**トンカチ行政**」

3

基地維持のための振興策

- 沖縄振興開発事業
 - 基地関係収入
- 1996年以降
- 島田懇談会事業
 - 特別調整費
 - 地方交付税の傾斜配分措置
 - SACO関連経費による交付金・補助金
 - 北部振興策事業

4

沖縄振興開発事業費

(沖縄総合事務局資料)

- 総額7兆3,389億円
(1972～2003年度の累計額)
- 92.3%に当たる6兆7,716億円が公共事業費
- 「高率補助」による補助金嵩上げ特例措置



5

沖縄県と他府県における 国庫補助負担補助率の比較

(沖縄総合事務局資料)

事業	沖縄	全国水準
河川改修費補助	9/10	1/2
多目的ダム建設事業費	9.5/10	7/10
道路改修費補助(県道)	9/10	1/2
地方港湾改修費補助	9/10	4/10
二種空港整備事業費	9.5/10	2/3
公営住宅建設補助	3/4	1/2
小中学校校舎増改築	8.5/10	1/2

6

普天間基地移設問題年表

西暦	月	イベント
1996	4	普天間基地の移設が日米間で合意
1996	12	SACO最終報告→海上施設と明言
1997	12	市民投票実施→受入反対の意思(21日)
1997	12	比嘉市長、受入表明し辞任(24日)
1998	2	岸本市長誕生→反対派候補落選
1999	12	県、市の同意を得て辺野古沖に閣議決定
2002	2	岸本市長再選→反対派候補落選
2004	8	沖縄国際大学に米軍ヘリ墜落(13日)
2004	9	那覇防衛施設局、ホーリング調査開始(9日)

7

島田懇談会事業

- 基地所在市町村限定の地域振興策
- 少女世論 [2003年度までの総事業費] 80億6,749万円(名護市企画財政課資料)
- 対象 マルチメディア館、ネオパーク沖縄、名桜大学の施設整備、etc...に充当

8

特別調整費

- 96年9月の代理署名応諾と引き換えに講じられた使途を定めない振興策
- **日米安保体制への貢献度によって**
沖縄振興に対する政府の取組み姿勢が変化
八田県政が独自施設を名護市に受け入れを拒否するとともに凍結
- 98年11月、稲嶺保守県政誕生後、12月の補正予算で**100億円**が計上される

9

地方交付税の傾斜配分措置

- 97年1月、名護市に事前調査受け入れを迫る際に提示
- **「9割補助」の償還財源を見越しての適用** (配分(内訳: 基地所在市町村50億円、沖縄県25億円))
- 名護市への配分 (2003年度): 3億1,735万円
(名護市企画財政課資料)

10

SACO交付金・補助金

[2003年度までの総事業費]

- SACO交付金 (2000年度～) なる特定
防衛 28億9,118万円
- SACO補助金 (98年度～) 的な使途は
首長 28億4,722万円
償的 (名護市企画財政課資料)
- SACO 辺野古・豊原両区の公民館、消防署久志出張所建設費、etc...に充当を適用。

11

北部振興策事業制度

- 「普天間飛行場の移設先に係わる政府方針」(99年12月28日閣議決定)に基づき創設
- [2003年度までの総事業費] 事業
92億6,508万円 (名護市企画財政課資料)
- 1 移設先地域活性化計画策定事業、久志海岸
ルネサンス構想策定事業、辺野古地区を中
心とした魅力あるまちづくり策定事業 etc...
- 予算の大半は繰越金に充てられている
- 移設先 (名護市・東村・宜野座村) には、SACO交付金・基地交付金を重点配分

12

名護市 基地関係収入決算額の状況

(島田懇談会事業費・北部振興策事業費を含む)
名護市企画財政課資料



まさしく

「基地維持のための振興策」

13

なぜ振興策は「基地受け入れ」の 駆け引き材料となりえるのか？

- 沖縄において、経済振興策は基地を維持する手段として有効である
- 予算編成過程は時間的圧力となって、**名護市長と周辺の意思決定に作用する**
- 国内政治において、自治体首長の意思決定は予算編成過程の影響を受けやすい

14

北部振興策をめぐる

- 名護市民投票 (9/7/12/21) 「年内決着」 (99/12/27)
- 政府の不当合意を撤回
 - 県政と名護市民は問題の源泉に位置し続けるが、その声は「県民の総意」としてかき消されていった
 - 大蔵原 (2/24)
- ⇒ 大田県政受け入れ拒否 (98/2/6)
以後、普天間問題凍結
- ⇒ 政府の二正面作戦
＊ 議会＝制度保証
＊ 岸本市長＝予算措置
政府「プラン」通りの結末

15

辺野古住民の応答

早稲田大学大学院
東洋大学非常勤講師
熊本 博之
hirokuma@hi-ho.ne.jp
<http://www.hi-ho.ne.jp/hirokuma/>

16

- 本研究 (熊本担当分) は、
「2003年度損保ジャパン環境財団
学術研究助成」
ならびに
「早稲田社会学会2004年度研究助成」
をうけて行われた。記して謝意を示したい。

17

辺野古の現状(1)

- 人口 (2005.4.1現在)
辺野古 : 1,646人
久志地区 (名護市東部) : 4,661人
→ 約3分の1が辺野古に集中
名護市 : 58,083人
→ 辺野古住民は名護市民の約3%
沖縄県 : 1,357,089人
→ 辺野古住民は沖縄県民の0.1%程度
(北部全体でも1割未満)

中南部 > 北部
名護市西部 > 名護市東部
辺境の中心としての辺野古

18

辺野古の現状(2)

- 軍用地料
区有地の軍用地料 : 年額約1億9300万円
私有地の軍用地料 : 年額約4億6700万円
地主 : 約200人。100万円程度が多い
※ 所有者は辺野古住民とは限らない



19

辺野古の歴史(1)

- キャンプ・シュワブの受け入れ
米軍、辺野古岳、久志岳一帯の山林野の接収を宣告 (1955.1)
→ 当初は接収に反対するも、「強制立退き行使も辞さず、一切の補償も拒否する」との勧告をうけ、「地元には有益になるような条件を付けて折衝に臨むのが得策」との結論に達し、受け入れを決断 (『辺野古誌』 p.632より)
→ 1959年10月完成
『生活もうほんとにできないかの生活していた。そこから立ち直る、なんとか抜け出したいって基地を誘致したわけ。』(Aさん・50代男性)

20

辺野古の歴史(2)

- 生活の近代化
水道、電気、ガスの整備
 - 建設作業員向けの賃貸業
空き部屋を貸したり、庭に離れ家を建設したりして作業員に賃貸→現金収入
 - 辺野古社交街の盛況
建設中は作業員、完成後は米兵
→ベトナム戦争の頃がピーク
「こんなバケツあるな、アメリカのバケツ、大きなバケツ、そのバケツにドル紙幣ぼんぼん、足でふみつけて、一晩でもうかるんだ。」(Bさん・70代男性)
- 「**基地が来れば儲かる**」という意識の醸成

21

辺野古の歴史(3)

- 地域の分断
市民投票、市長選挙
「互いの陣営には、兄弟姉妹、肉親がいて、二手に分かれて争っている」(石川真生「沖縄 海上ヘリ基地」p.224)
- これ以上、地域を混乱させたくない
「道であってもあいさつもなし」(Cさん・70代男性)
という現状の打開
混乱の原因＝移設問題
→「**移設問題については話さない**」という選択
…話せば混乱が生じるのはわかっているから

22

受け入れの言い分(1)

- 経済効果への期待
「そういう振興策が期待できるから賛成っていうことなんだから。」(Dさん・50代男性、士建業)
 - 子孫への基盤造り
「基本的なもの、またやるべきことはやって、バトンタッチしないと、責任逃れみたいになるけど、基盤は基盤で固めておいてやらないと。」(Eさん・50代男性、辺野古行政委員)
- ←基地がきて儲かった経験によって補強される
- 経済効果が期待できるので受け入れる！**

23

受け入れの言い分(2)

- 宜野湾のため
沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事件をうけて…
「だから辺野古が受け入れてあげないといけないさね」(Fさん・60代男性)
- ←お金と引き換えに受け入れることへの罪悪感を軽減
- 被害はたいしたことない
「僕が物心ついたときから騒音はありましたよ。(中略)ヘリがぼーって飛んでも、ただうるさいなあっていうだけで、それとかなりの迷惑っていうのはあまりない。」(Gさん・30代男性)
- ←受け入れて生活環境が悪化することへの罪悪感を軽減
- 本当は受け入れたくないものを受け入れるがゆえの、自己正当化の言い分

24

反対の言い分 (1)

■ 戦争経験

「基地つくったらどうしてもね。戦争の前触れみたいな感じがしていやですね。」(Hさん・80代女性)

■ 基地被害

「基地の近くにいれば確実に被害は被る。ここは兵隊とのトラブルも日常茶飯事だし、僕もここで兵隊になぐられたことがあるからね。」(Aさん・50代男性)

■ 子孫のため

「子供たちが、将来の、この辺野古のね、大事な海をまもろうとおもわないと、子供たちがかわいそうですよ。」(Iさん・70代女性)

25

反対の言い分 (2)

■ 海を失いたくない

辺野古住民にとっての海＝生活の中の海
→実際に恩恵や楽しみを与えてくれるもの

「辺野古のひとはみんな、海に助けられた、生活を。」(Iさん・70代女性)

その気持ちは反対の立場にたつ住民も同じ

「いやー、それはちょっと、あるな。小さい頃からもうあそこで遊んでますからね。たしかに残したいね。」(Gさん・30代男性)

26

だがしかし、

反対の言い分も受け入れの言い分も、普段は口に出されることはない

・・・地域を割りたくないから

←市民投票、市長選挙で地域が割れてしまった経験

「これはほんとに罪ですよ。賛成反対にわけて・・・国はほんとに罪ですよ。」(Iさん・70代女性)

27

国策としての辺野古沖移設

- 1999年12月28日 閣議決定

- 同日に北部振興事業制度も閣議決定

- その他の財政措置 (塚田報告参照)

→潜在的な経済振興への期待を抱く辺野古住民に**反対の声をあげにくくさせた**

「国策だから・・・」

しかも、辺野古では受け入れについての議論もなされていない。

→**国策に抗う力は期待し得ない**

その結果・・・

28

受け入れを積極的に支持する人はいないのに、全体として「受け入れるしかない」「結局は受け入れるんだろう」という**あきらめ**が住民を支配

意思決定権の不在

→結果として住民は、中立の立場にたたざるを得ない

「にっちがいつてることもあってるし、あっちがいつてることもあってる。でも自分の立場としてはほんとにもう、ふがいないというか意味だけどアバウトです。中立ですから、中立ですから個人としては。」(Jさん・50代男性)

このような現状にある辺野古で反対運動は・・・

29

反対運動との関係(1)

■ 運動の状況

住民運動：命を守る会

市民運動：市民アセスなどetc...

反戦平和運動

ヘリ基地反対協議会、平和市民連絡会etc...

自然保護運動(ジュゴン保護運動)

ジュゴン保護キャンペーンセンターetc..

→中心は「命を守る会」だが、**外観は反戦平和運動**

30

反対運動との関係(2)

■ 運動への感謝

「ほんと長いことごろうさまだなってますよ。あんなにいっしょうけんめいやって、それこそ自分の時間を割いてね、やってらっしゃるんだから私えらいと思うんですよ。」(Kさん・60代女性)

「われわれの「(命を)守る会」だけの力ではですね、おそらくこんなね、盛り上がりっていうのは絶対につくれないと。」(Lさん・50代男性・元「命を守る会」メンバー)

31

反対運動との関係(3)

■ 運動のよそ者性に対する批判

「あの人達住民じゃないですよ。名護市の人間じゃないですよ。辺野古の人間じゃないですよ。」(Gさん・30代男性)

「内地(日本本土)ね、部外者が多いからそれが気になる。なんもすべてその、思想的な活動家が・・・」(Dさん・50代男性・土建業者)

・・・このように、**感謝と批判が相俟っている状況**
その帰結として住民は・・・

32

反対運動との関係(4)

- 運動に参加しない

[理由]

地域を再び割ることになるため態度を表明できない

- でも阻止もしない

[理由]

1. 利害の一致

海を埋め立てたくない、基地などほしくない

2. プレゼンスとしての運動

自分たちは運動できないけど、反対の意思を示すことは必要

→だまって受け入れるわけにはいかない

33

ポスト「辺野古」

- これまで辺野古に関わってきた人たちは、「」のどれた日常の辺野古と関わっていくことができるのか？

→意思決定権を奪われた辺野古住民に、再び決定権を与えることができるような関わりは可能か？

…ここから導き出される1つの問い

34

ポスト「辺野古」

- 誰のための運動なのか？

「よその人たちは辺野古のひとたちにまったくそういう期待もあげることなく、自分たちがいっしょうけんめい目指していることに行動的にでる、という気持え。なかなか、あのひとたちと話し合いたいという気持ちにはならない。」

(Dさん・50代男性・土建業者)

辺野古の住民も本来なら基地反対、海は残したい。だけど、経済的なことを考えると受け入れるしか…

→この気持ちを汲み取り、住民が反対の声をあげられるような状況をつくらなければ**辺野古**のための運動にはならないのではないかな？

35

